

「世界に誇れると思う日本の文化」②

「一段落目」世界的な日本文化の例

日本文化というと、私の知っている外国人は、たいてい初めに漫画やアニメを挙げる。次には歴史的なもので、あまり日本のことを知らない人は、忍者や侍みたいなベタなものを挙げるし、逆にやたら詳しい人は私の知らない歴史上の人物のことなどを知っていて私を困らす。あとは日本食とカラオケ。アジアでは、日本の歌がけっこうよく聞かれて、歌われているみたいだ。

「二段落目」自分が誇れる日本文化

世界に知られている日本文化はいろいろある、みたいだ。でも、私は正直なところあまりよく知らないものが多い。漫画もそれほど読まないし、歴史の知識も多くない。料理は作れないし、歌える歌もそんなにない。ただ、世界に誇れるというべきかどうかは分からないが、私が日本人以外の人と接する時に自慢に思えることが一つある。それは、私が日本語を使えることだ。私より日本の歴史や文化に詳しい知り合いの外国人がいて、そういう人から日本のことについて聞かれたりすると、時々引け目を感じてしまうのだが、どんなに日本のことに詳しくても、日本語も少し話せるような人でも、外国人であれば、日本語を母語とする私の日本語には適わない。相手が日本文化好きであればあるほど、当然ながらこの思いは強くなる。「私は、あなたの好きな日本文化を作っている日本語のネットワークと、ダイレクトでつながっている」と。

「三段落目」なぜそれが誇れるのか

実を言うと、私は日本で暮らしたことがほとんどない。おまけに、父は日本人だが、母は外国人だ。生まれてからほとんどを海外で過ごしてきた。夏休みなどの長期休暇に日本へ帰ることはあるが、日本で生活したことはほとんどない。それでも日本人学校に通っていた期間が長いおかげか、私の母語は完全に日本語だ。中国語と英語も話せるが、普段の精神活動は日本語で行われている。そして、このことが、日本で暮らしたこともなく、血の半分が外国人である私を、日本につなげている最大のものだと思うのだ。そして、私個人としては日本文化に何も貢献してはいないのだが、日本好きの外国人たちに尊重されたり羨んでもらえたりすると、誇らしさを感じさせてもらえる。もちろん世の中には日本好きもいれば、日本嫌いのいる。だが、国としての日本や日本人が嫌いな知人なども、日本の漫画やアニメを見たり、日本料理を食べたり、J・POPを聞いていたりする。そういう人を見ると、かえって優越感が感じられたりすることもある。まあ、すべて日本文化を支えている人たちのおかげであり、私は何にも優れていないのだが。

「四段落目」結論・まとめ

日本語のおかげで、日本文化と繋がっていられる。そして、日本文化の中にいる者として見てもらえる。だから、私が世界に対して誇れる「私の日本文化」は日本語だ。いつかは私も日本人であることを誇りに思える人たちが増えるような貢献を、日本文化に対してできたらいいなと思う。